

# 全科協ニュース

平成3年12月20日発行  
(通巻第121号)

全国科学博物館協議会  
東京都台東区上野公園  
国立科学博物館内  
〒110

Tel.03-3822-0111(大代)  
Fax.03-3824-3298

- おもな内容：◇博物館法制定40周年 東京家政大学教授 伊藤俊夫  
◇博物館法施行規則の一部改正  
◇博物館法制定40周年記念式典・第39回全国博物館大会開催される  
◇ミュンヘンの街と博物館 滝川市美術自然史館 河野敏昭

## 博物館法制定40周年

東京家政大学 教授 伊藤俊夫



### 先ず源流ありき

私が初めてソ連を訪れたのは、黄褐色の落葉が、カラコロと足もとにまとわりつく季節でした。ペレストロイカよりも、はるか昔のことです。

ある日、ソビエト経済達成大博覧会へ案内されました。施設は質素でしたが、スプートニクなど、国民を鼓舞し、連帯を求める展示が目白押しで、会場では、国内のさまざまな民族の人達が目を輝かせていました。形あるものが訴える偉力は、いずこも同じです。

博物館法の理念をつくった棚橋源太郎（戦前の国立科学博物館長）は、海外の博物館から多くを学んでいます。ハビタート・グループ式展示を編み出したサウス・ケンジントンの博物館群、歴史

的建造物に生活を再現したスカンセン野外博物館、展示に生命を吹き込んだドイツ博物館などがそれで、これらは、いずれも万国博覧会の純益を基金にしたり、出品物を移築したり、あるいは博覧会にヒントを得るなど、博覧会と関係深いものでした。

日本でも遣欧や遣米使節による博物館の紹介はありましたが、近代博物館発足の直接の動機は、初出品した第5回万国博覧会で覚醒されて開いた博覧会でした。当初は国家近代化の先兵として殖産興業を中心でしたが、やがて、今日の博物館の隆盛を招いています。

### 博物館は学び出すところ

閉館直後の某博物館の前で、遠くから来たのだから入れてくれ、とねばる母親をみかけました。子連れだと、利己としての遺伝子がうずくのか、私達の税金で雇われているくせに、と母親は口走ってしまいました。小学生らしい子供が、もう帰ろうよ、おじさん達も大変なんだよ、としきりに袖を引いています。父親はと見れば、柱のかげで立ってました。

どこの国の博物館を訪れても、親子連れが目につきます。その殆どは、親が楽しそうに展示を説明している微笑ましい光景です。

参加する博物館とは、粘土こねやスイッチ・ポンばかりではないでしょう。訪れた人が展示を媒介として、主体的な心の演技者になるのが本当の参加だと考えています。そうだとすると、展示の解説文が長すぎるようです。400字近くもあれば大人でも読むのが精一杯で、展示も見られず、子供に物語りをするゆとりもありません。それに、自信のないお役人は居丈高にやり、自信の無い専門家は難解な表現を用いるとかいいますが、概して、解説文の難しいケースが多いのは残念です。

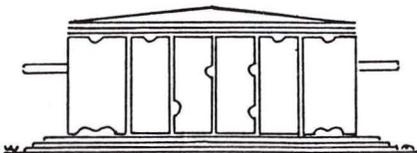
教えよう、覚えさせようという気持ちが強いのかも知れませんが、実物に語らせるのが博物館ですし、驚き、考え、発見し、親子も楽しむ「学び出す姿勢」が大切だと思います。

棚橋源太郎は、百科全書的な記憶中心の教育を否定し、観察実験による科学教育を提唱して、「博物館は、活社会の実物教育機関」という考え方を結晶させました。これは、博物館法に生きてます。学芸家の真摯な研究と緻密な吟味を経た“さりげない展示”が、この精神を开花させるはずです。

### 生涯学習社会の担い手

シカゴ科学博物館で、日本の教員海外派遣団の方々に会いました。学校の博物館利用の参考になると思い、階下の学校教育サービス用施設の見学をおすすめしたところ、外国では日本語で話しかけてくる人は警戒せよ、という文部省の事前指導の成果を知らされる始末でした。

最近、生涯学習の重要性が叫ばれています。これは、人びとが激しく変化する社会を生きていくため、生涯にわたって学び続けるようになったので、それに見合う教育の仕組みを整えようとする考え方です。その意味では、老若男女を対象とし、好奇心を刺激したり、学習意欲を触発したり、あるいは本格的な学習や研究をお手伝いする博物館は、生涯学習時代のチャンピオンです。



一方、大学への社会人入学、放送大学、正規の学校教育を受け入れる少年自然の家などのように、学校教育とも、社会教育ともつかぬ学習が増えてます。学際的と同じで、教育機会際の学習です。生涯学習は、これらを上手に扱えられるようにした理念です。ですから、棚橋源太郎が博物館法に期待した「博物館は社会教育の機関であると同時に、学校教育の補助施設であり、また学術研究の機関である」という真意は、まさに博物館こそ学習機会際の学習の機関であることを洞察されていたわけです。できれば、文言の「補助」は削除していいかも知れません。アメリカの博物館前に蝟集するゼブラ模様のスクール・バスが、その可能性を示してくれていますから。

博物館法制定40周年を迎え、博物館の源流を尋ねながら、生涯学習時代のチャンピオンらしく、ここで飛躍を期したいものです。

### 筆者プロフィール

伊藤 俊夫 (いとう としお)

○群馬県生まれ。

○昭和49年に米国・カナダ・メキシコ、昭和54年にヨーロッパ、昭和55年に米国、カナダの博物館を調査。他に海外旅行中も各地の博物館を訪れる。

○著書・論文(博物館関係)

「海外諸国の博物館」：文部時報1253号

「博物館振興のために」：月刊文化財124号

「公民館・図書館・博物館」：教職研究107号

「アメリカ博物館報告書」：日本博物館協会

「日本の博物館の現状」：自動車博物館調査報告書

「社会教育の施設」：第一法規出版

「棚橋源太郎—博物館育ての親」：全社教編集

「社会教育論者の群像」所収

「社会教育の基礎」：文教書院

「生涯学習推進体制の構築」：第一法規出版

「概説生涯学習」：第一法規出版

「生涯学習推進計画」：第一法規出版

以上を含め、著書・論文が多い。

○専門は、社会教育・生涯学習。

## 博 物 館 法 施 行 規 則 の 一 部 改 正

博物館関係の法令のひとつである博物館法施行規則（昭和30年10月4日、文部省令第24号）の一部が、平成3年6月19日文部省令第31号をもって改正され、同年7月1日から施行された。

今回の改正は、学芸員の養成の充実を図るため、講習において習得すべき科目の単位の計算方法について、合理化を図るなどの改善を行ったものである。

改正された省令の内容は次のとおりである。

1. 学芸員の資格取得に関し、文部大臣の指定する講習等における科目であって、その一定数以上の単位を修得した者が試験認定に係る試験科目の免除を受けることのできる科目の単位の計算方法について、大学設置基準の一部を改正する文部省令（平成3年文部省令第24号）による改正後の大学設置基準第21条第2項〔※参照〕に定める基準によるものとしたこと。
2. 学校教育法の改正により、学士を学位として位置付けたことに伴い、学士の「称号」を学士の「学位」と改めるなど学芸員の資格認定に係る試験認定及び無試験認定の受験資格の規定の整備を行ったこと。

## ○文部省令第31号〔全文〕

国立学校設置法及び学校教育法の一部を改正する法律（平成3年法律第23号）の施行に伴い、及び博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項第1号及び第3号の規定に基づき、博物館法施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。

平成3年6月19日

文部大臣 井上 裕

博物館法施行規則の一部を改正する省令  
博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）の一部を次のように改正する。

第2条を次のように改める。

## 第2条 削除

第5条第1号中「称号」を「学位」に改める。

第7条に次の一項を加える。

- 2 前項の文部大臣の指定する講習等における単

位の計算方法は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条第2項に定める基準によるものとする。

第9条第1号中「による」の下に「修士又は博士」を加える。

第25条中「第5条第1号に規定する学士の称号」を、「第5条第1号に規定する学士の学位」に改める。

第27条中「規定する」の下に「博士の」を加える。

## 附 則

この省令は、平成3年7月1日から施行する。

## ※参照

## ○大学設置基準（抄）

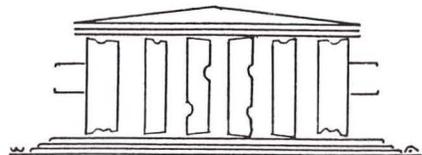
第21条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

- 2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

二 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

- 3 （略）



## 博物館法制定40周年記念式典・第39回全国博物館大会 開催される

平成3年12月9日、国立教育会館虎ノ門ホール（東京都千代田区）において、天皇陛下、皇后陛下の御臨席を賜り、博物館法制定40周年記念式典が盛大に挙行された。式典では、博物館の発展に貢献のあった114名の方々に文部大臣表彰が贈られ、その功績が讃えられた。

この記念式典に引き続き、第39回全国博物館大会が次のとおり開催された。

- 1.会期 平成 3年12月9日(月)～12月10日(火)
- 2.会場 9日:国立教育会館虎ノ門ホール  
10日:東京国立博物館(東京都台東区)
- 3.大会テーマ

「新しい世紀をめざす博物館」

昭和26年に博物館法が制定されてから40年が経過し、この間、日本の経済成長に歩みをあわせて、博物館施設も増加して、現在2800館を超えるに至っており、引き続き増加の傾向にある。

一方近年の生涯学習社会の中で、博物館をとりまく社会状況は大きな変化を生じており、このような時に人々の多様化高度化する学習活動に的確に対応し、生涯学習を振興するための社会教育施設としての博物館の果す役割はますます重要になっている。

博物館法が制定されて40周年を迎えるに当たっ

て、あらためてわが国博物館の一層の充実・発展を期するため、シンポジウム・フォーラムを開催して、新しい世紀に望む博物館への期待と要望のもとに、今後の国内・国外における博物館の新たな役割について、広範な角度から検討・協議を行う。

この大会において、日本博物館協会の顕彰者表彰などが次のようになされた。

- 1.永年勤続顕彰（顕彰規定1号） 87名  
（顕彰者氏名 略）
- 2.事業功績顕彰（顕彰規定2号） 2名  
山梨県立博物館 山田 孝三氏  
徳川 美術 館 徳川 義宣氏
- 3.寄附行為顕彰（顕彰規定4号） 19名  
（顕彰者氏名 略）
- 4.棚 橋 賞 1名  
戸田市立郷土博物館長 村上 義彦氏
- 5.支部表彰 3支部  
日本博物館協会 東京支部  
日本博物館協会 東海支部  
日本博物館協会 近畿支部

ほかに、9日にシンポジウム、10日にフォーラムが開催された。

## 1992年に開催される海外の博覧会

### ○国際園芸博（フロリアード1992）

会 場：オランダ・ハーグ市、ズーテルメル市

会 期：4月10日～10月11日

10年に一度の国際園芸博。テーマ毎に花のコンテストを実施。日本の伝統家屋と日本庭園が出展。会場面積68<sup>ヘクタール</sup>。予想入場者約300万人

### ○万国博覧会（セビリア万博）

会 場：スペイン・セビリア市

テーマ：発見の時代

会 期：4月20日～10月12日

大阪万博(70年)以来の一般(総合)博覧会。参加110カ国。テーマ館は人間の好奇心の成果を展示。会場面積215<sup>ヘクタール</sup>。パビリオンは日本出展の木造建築をはじめ約100。予想入場者4,000万人。

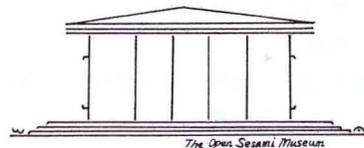
### ○国際船と海の博覧会

会 場：イタリア・ジェノバ市

テーマ：クリストファー・コロンブス 船と海

会 期：5月15日～8月15日(93日間)

新大陸到達500年を記念して開催。日本をはじめ37カ国が参加。日本の羊蹄丸が浮かぶパビリオンとして出展。会場面積約6<sup>ヘクタール</sup>。ヨーロッパ最大の水族館建設中。予想入場者350万人。



## ミュンヘンの街と博物館

滝川市美術自然史館 河野 敏昭

全科協のヨーロッパ視察研修に参加させていた  
だき、団体で見学した12館のほかに、個人で見学  
したものを含めて、2週間で28の博物館・美術館  
を見学した。規模の大きな博物館が多く、くたび  
れはしたものの、ミューズの神に導かれて、一日  
中歩き回り見学しても飽きることがなかった。と  
いうよりむしろ、もっと時間が欲しいと思った。

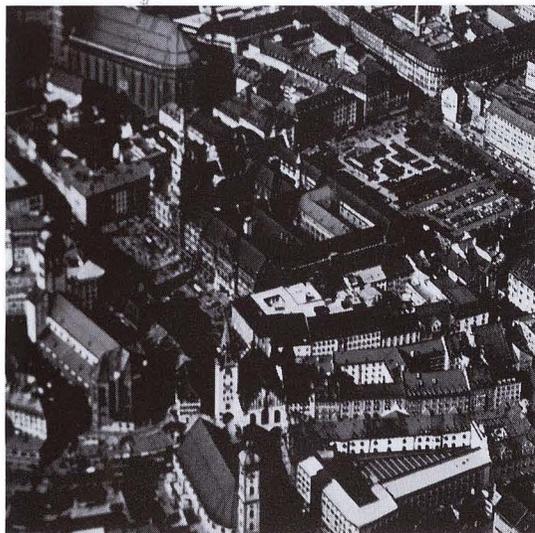
四カ国5都市をたずね、筆者が特に印象に残っ  
た街は、ミュンヘンである。東西ドイツの統一が  
なされた直後でもあり、歴史の大きな転換期を感  
じさせる一方で、中世と現代が同居し知的な雰  
囲気が溢れる街であった。できたらこんな街に住  
んでみたい。トーマス・マンが半生を過し、今ミ  
ハエール・エンデが住むにふさわしい街に思えた。

このミュンヘンの街とその博物館のことを、旅  
行中のメモから抜き書きして報告したい。

\*\*\*\*\*

12月11日、1990年

夜6時、ミュンヘン空港に到着。添乗員から、  
「ミュンヘンは、文化と産業の街、夜女性が一人  
で歩いても安全といわれ、ここに住むことがド  
イツ人のステイタス」との説明があった。ホテル  
につくとすぐ、一人でタクシーに乗り、アルテ・  
ピナコテークにむかった。アルテとは「古い」とか、



ミュンヘンの街並み（絵ハガキから）

「美しい」の意味でも使われることがあるが、ピ  
ナコテークは「絵画館」の意。展示されているレ  
ンブラントの自画像、ブリューゲルの「怠けもの  
の天国」、デューラーなどを見学する。ヨーロッ  
パの美術館巡りを「美の巡礼」などとキザな呼び  
方がされる。しかし、こうして中世宗教絵画を数  
多く見たり、絵画史上に残る巨匠たちの作品に直  
に対面すると、熱にうなされたかのように次々と  
いろいろな街のミュージアムをたづねたくなる。

8時30分、北向いのノイエ・ピナコテークへい  
く、ノイエとは「新しい」の意。1853年に開館、  
入場は無料。ゴッホの「ひまわり」、マネの「ア  
トリエの朝食」、セザンヌの自画像などを急いで見  
てまわる。館内には、学芸員らしき人から絵画の  
説明をうけている10人程のグループが、7〜8つ  
見受けられる。見学者がおもいおもいリラックス  
した様子で、知的な大人の時間を過している雰  
囲気。このような時を過ごす人達が本当に羨ましく  
思えた。9時に閉館となり、やむなく外へ、雪の  
夜のミュンヘンを一人歩いた。このあたりは、な  
んとなく札幌の街に似ていると思う。最近札幌は  
東京に似てきて？醜悪になったところがありはし  
ないだろうかなどと異郷の地で考えたりした。

やっと地下鉄の駅にたどりついたが、切符売場  
が見つからず、改札もないのでとりあえず乗車。  
切符なしで乗車すると60マルクの罰金だそうだ。

新市庁舎前で下車、マリエン広場にでるといき  
なり、高さ100mの15世紀のゴシック建築「聖母  
教会」が目に入る。驚いた。まるで中世にタイム  
スリップしたかと思う。”新”市庁舎の方は19世  
紀に建てられた新ゴシック調だそうだ。その塔に  
ある仕掛け人形も美しく、この広場では市庁舎と  
教会が偉容を誇っていて、圧迫感がある。

近くのデパート街ではクリスマスの飾付けがす  
ごい。ショウウィンドウの中に数百のぬいぐるみ  
がすべて電動となっていて、カエルがギターを弾  
き、ウサギがボートを漕ぎ、それぞれ違った動き  
をする。こんなに”根性”のはいったディスプレイ  
は初めて見る。見ていて時を忘れる程とても楽  
しいものであった。なんとなく華いだ気分のまま、



ドイツ博物館

ハーブプロイという有名なビアホールで、本場のビールとソーセージ、ジャガイモの夕食をとる。安くて、とてもうまかった。

\*\*\*\*\*

12月12日、1990

視察団全員で、ドイツ博物館へ。博物館のHigrun部長が我々を迎えてくれ、概要を説明してくれた。

創始者オスカー・フォン・ミラー氏が1925年に開館。1934年に全ての建物が完成、第二次大戦で、建物の8割を損壊したが、戦後元のままに修復。

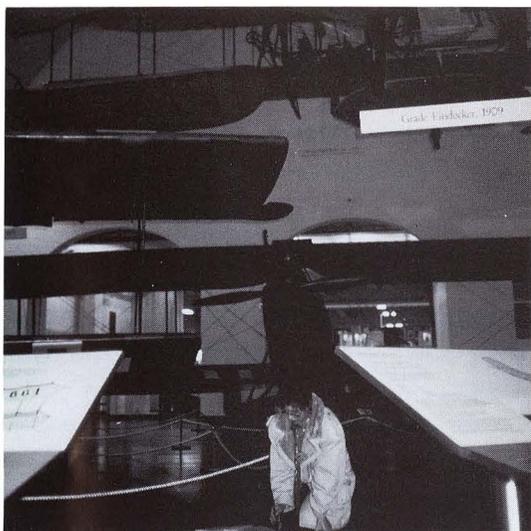


展示品の農機具を動かすことができる

展示室の他に図書室、講義室などがあり、収蔵資料65万点、蔵書80万冊。博物館の面積は約5.5万㎡、展示室を歩くだけで16kmにもなるそうだ。

館職員400人のうち、理工系の博物館らしく電気・機械整備と展示の維持管理に約210人、学芸部門40人、管理運営等に150人が充てられている。年間入場者は約140万人、年間経費約5,000万マルク（約35億円）。博物館運営の法人化はミラー氏の独創で、行政の関与を受けずに博物館事業を行い、国や企業から必要なだけ援助を受ける方法は大変うまくいっているとのことだ。10年に一度テーマ毎の展示替えを行なうが、1㎡当たり1,000～2,000マルクの費用がかかり、莫大な経費は企業の援助なしでは賄えない。日本の企業からも援助がある。

展示では、ドイツの科学技術を中心に世界の科学技術館を目指している。確かに科学技術・産業技術史の大パノラマといえる。建物の地下に炭坑・鉱山の技術展示があり、本物の坑道を再現したような狭い通路の中を歩きながら見学すると、実物の石炭が壁に張り付けてあって、実にリアルだ。この博物館で感心したのはその本物主義である。自動車、蒸気機関車、航空機、船舶など実物を展示し、手入れも行きとどいており、さらに内部が観察できるように断面を見せるなどの工夫があって、分かりやすい。印刷、写真、製紙、楽器、錬金術をはじめ宇宙開発、コンピュータ先端技術な



飛行機展示をスケッチする見学者

どは時代を追って発展の様子を紹介している。プラネタリウムというのが世界で最初に設置されたのはここだと教えられた。

ゆったりとした展示、統一された色調、機械という資料が木や石を使った展示とうまく調和しているためか疲労感がない。3時間歩き続けても、おおざっぱに概観をなでたくらいとしか思えないほど、巨大な博物館である。それぞれのテーマでひとつずつ博物館が作れるのではないかと思った。機械類のどの展示資料も、実際に動かせる状態に保たれ、頼めば展示解説をしてくれるとのことであった。地味なところで、確かな仕事をする博物館の姿勢を感じさせられた。

ドイツ博物館のミュージアムショップは、明るく楽しい雰囲気の中で、科学関係の図書やおみやげが

多数並んでいた。日本のコマなどの玩具もあった。

\*\*\*\*\*

ドイツ博物館を出た後、州立美術館でポール、クレー、ピカソを見たり、その隣の国立博物館で中世宗教画や陶磁器を見学した。さらに歩いて、レジデントのエジプトコレクションは見たが、ジューメンス博物館は閉館時刻で入れなかった。ミュンヘン市立博物館につく、地域の歴史、ビール醸造が詳しく紹介され、統一された説明パネルは大変美しく見やすい。我が町の歴史民俗資料館もこんな風につくれるといいなあと思う。

このミュンヘンをはじめとして、ヨーロッパの博物館は、単に知識を整理して、入館者に見せるだけではないのだと思う。中世のたたずまいを残す街並みと博物館は実によくなじんでいるという気がしてならない。歴史ある古いものと、新しい技術や現代の生活が同居している光景は、もちろん日本でも決していないものではないだろうが、自分には新鮮に感じられた。博物館の中に流れる時間も、日本のものとはずいぶん違うように思う。自分の勤める博物館で、館内案内を求める団体は、得てして40分～50分で見せてくれというのが多い。時間をかけて、ゆっくりと見てもらえるような館にしたいものである。歴史と文化の違いと言ってしまえばそれまでだが、同じ博物館と称しても、洋の東西ではその在りようの違いには考えさせられるところが多い。床にベタンと座り込んで熱心に何時間もスケッチする人たち、小人数のグループで展示解説を熱心に聞く人々、こうした人々を包み込む知的な雰囲気がある大人社会のおちついた博物館の在りようを示唆しているように感じた。



ドイツ博物館のミュージアム・ショップ

---

 全 科 協 北 か ら 南 か ら
 

---

## 加盟館の企画展・特別展

○目で見るとくすりのあゆみ展 国立科学博物館  
平成4年3月7日(土)～4月5日(日)

人類がどのように幾多の疾病を克服してきたか、その努力の経過をたどり、その過程で医療を支えてきたくすりの変遷に焦点を当てる。展示資料数は650余点。共催内藤記念科学振興財団。

○新着地学資料展 千葉県立中央博物館  
平成3年12月7日～平成4年3月31日

開館以来同館が採集、購入したり、寄贈をうけた地学資料を紹介。千葉県内で発見された日本最古の虫入り琥珀をはじめ、海外の大型化石や鉱物標本を中心に、房総半島と地球の歴史を解説する。

○太古からのメッセージ 新潟県立自然科学館  
開館10周年を記念して、新潟県の化石や岩石、新潟の大地のおいたちを紹介する特別展を開催。

国内の博物館や研究機関等の協力を得て、化石標本、写真パネルを多数展示し、来館者に好評であった。[写真下：会場入口、下段：展示場内]



○オーデュボンの世界 —史上最高の鳥の図鑑—  
平成3年12月1日～平成4年5月31日

我孫子市鳥の博物館

我孫子市鳥の博物館(千葉県)では、米国の最も著名な鳥の生態画家ジョン・J・オーデュボンの実物大複製版絵画約70点を展示。150年の歴史を超えて語りかけてくる躍動感あふれる鳥たちの水彩画はオーデュボンならではの作品である。

この企画展期間中に、より多くの作品を公開するため、7回展示替えをする。

○全国カレンダー展

明石市立天文科学館(兵庫県明石市)では、特別展示「1992年全国カレンダー展」を開催。プラネタリウムでは、「地球という星」をテーマに番組を投影。

## 出版物の紹介

○「我が国の文教施策—世界に貢献する学術研究—」

平成3年度版「教育白書」では、我が国の学術研究を特集し、学術政策の課題と展望、学術研究の意義、学術研究基盤の整備の現状等を紹介している。また、文部省の教育改革に関する取組みをはじめ、文教施策全般について図表を交えて、紹介。A5判 定価2,300円。編集：文部省

○岩手県立博物館の出版物

「岩手県の地質図—博物館版—」500円

「山人 その生業と伝承」(新刊)1,000円

「北国の樹皮文化」(新刊)1,300円

問い合わせ先：電話 0196-61-2831

